

解雇問題を解決し
安全・安心のJALを

航空連ニュース

航空労組連絡会
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル
Tel 03-3742-3251
Fax 03-5737-7819
No.903 (32-13) 2017年12月22日

12/6 院内集会報告①

労使交渉と運動の両輪で解決を迫る ～解決への道筋を全員で確認～

12月6日、参議院議員会館において、統一要求に基づき争議解決を求める院内集会が開催され、原告と当該労組をはじめ、支援者、弁護士、国会議員、秘書の170名が参加しました。新年には8年目を迎える解雇争議の到達点と解決への道筋を、全員で確認しました。参加者からの意見・団長の決意表明・閉会の挨拶については、次号で紹介致します。

労使交渉と社会的包囲で解決の扉を開く

＜全労連 小田川議長の開会の挨拶＞（発言の要旨）

不当労働行為を断罪した最高裁判決と、意義ある対話を求め続けている ILO 勧告。この二つの点に依拠して、昨年10月統一要求ができた。足並みをそろえて会社との交渉が開始され、交渉による労使解決を目指している。

人手不足の職場実態・不当労働行為での最高裁判決、ILO 勧告を活用し理を尽くした追求の中で、頑な姿勢であった JAL の姿勢にも微妙な変化が見え始めている。

見え始めた変化を見逃さずに、当該組合を先頭とする会社との交渉で、争議解決の扉をこじ開ける力の集中が今必要な段階に来ている。

社会的に企業を包囲して、統一要求に基づく交渉で粘り強く解決を迫り続けることで、解決の糸口は必ず生まれてくる。手繰り寄せてきている糸口をこじ開けて2018年を解決の年にしていく、そのための意思統一の集会としたい。



参加された議員から連帯の挨拶がありました

参加された議員は共産党が7名、秘書は16名（民進党1名、立憲民主党1名、自民党1名、共産党13名）、事務局1名（共産党）でした。また、社民党からメッセージを頂きました。共産党の山添拓議員と畑野君江議員が代表して挨拶されました。

山添拓議員は、「違法行為は、救済に入った国の関与の下で行われた。国が出資する企業再生支援機構が JAL 再生のためにお金を出す側と受け取る側であった。当然国に責任ある。」と述べ、畑野君江議員は、「ILO 条約違反、憲法違反、この事態を改善する。機は熟している。統一要求実現のために頑張りましょう。」と述べました。

闘いの到達点と今後の課題

＜乗員組合今泉副委員長と CCU 古川委員長＞



両組合から、職場状況と交渉状況について報告がありました。

- 二つの最高裁決定と ILO 勧告を背景に、4 つの具体的な要求として統一要求とした。
- 破綻以降、会社が抱えている矛盾・・・極めて良い財務状況・人員不足による高稼働・パイロット・・・他社への流出・病欠による乗務離脱者増
客室乗務員・・・3000 名を超える CA 採用・過密勤務・体調不良による救急搬送など
- 交渉でこれまで難しいとしか言わなかった会社に対して、統一要求に基づく具体的な議論を行うことで、会社が「持ち帰る」「預かる」としたことは大きな局面の変化。
最後に、統一要求実現のために、更なる支援要請がありました。



ILO 四次勧告への展望が話されました

＜牛久保秀樹弁護士＞（発言の要旨）

来年 3 月の ILO 理事会に JAL 案件が諮られることがほぼ確実になり、4 次勧告が採択される可能性は極めて高い。この間重要な事は、5 月にガイライダー事務局長が来日され関係者と面談した。組合との懇談も実現。組合の説明を熱心に聞かれるだけでなく質問までされた。

フォローアップの対象は次の 3 点。

- ① 会社更生の適用過程で、スト権投票に本来公正であるべき管財人が支配介入した、かつてない案件について最高裁決定が出されたこと。87 号条約、結社の自由行為違反と言うことになる。
- ② 組合が原告団とも十分に協議して、現実解決に向けた統一要求を確定させたこと。この統一要求について、ILO の担当者は会社側の選択の幅が広がったと理解を表明。統一要求の内容、交渉の実態について、フォローアップを実施して見解を表明する。
- ③ 組合は事態解決に向けて ILO の援助、アシスタンスを正式に要請している。要請に ILO がどのように応えるのか期待される。

ガイライダー事務局長は ILO 議連の皆さん方の特別セッションで、今後も適切な方法によって工夫していくと正式に表明。政府は労使交渉に解決を求めるということは、ILO の立場と一致していることを ILO 側に表明している。今や解決は経営側の決断一つになっている。国会においては従来 of 勧告の実現、4 次勧告の実現に向けて尽力をお願いしたい。